

# Forex

株式会社 ジャパン  
エコノミックパルス

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町

2-33-5

Tel 03-5962-3910

Fax 03-5962-3913

www.j-pulse.co.jp

info@j-pulse.info

# Market Insight

2026年8月3日（月）

## 全般円高、持続余地と反動調整にらむ

### 円安対応、株価、米指標、米日の中銀政策など焦点

今週の為替相場はドル/円、クロス円での全般的な円高・外貨安について、持続余地と反動調整をにらんだ展開となる。週間予想はドル/円が154.00－158.30円、ユーロ/円が175.60－184.20円。前週は日本の当局による円買い・ドル売りの市場介入が実施されたほか、前週末以降は米当局による協調参加や円買い・ユーロ売りの介入が明らかになった。全般的に円が大幅高になっている。今週は米日当局の円安是正対応や円高と決算発表などを踏まえた日本株動向、雇用統計などの米指標、米日の中銀政策などが焦点になる。

### ドル高値更新後の急反落、最近は3－4カ月で底入れ

今週の為替相場で注目されるのは、日米の協調による円安是正対応の行方だ。前週は日米の協調で円買い・ドル売り介入が実施されたほか、米当局は円買い・ユーロ売りの介入も行っている。

今週の週明け3日には日米財務相の談話として、「過度な変動や無秩序な動きに対処するため、日米協調介入を実施した」、「さらなる協調介入への参加もためらわない」、「米国は、円の著しい過小評価を是正するため、日本が断行した市場対応および金融政策を強く支持する」といった見解が示されている。

目先の為替相場ではドル/円、クロス円ともに、追加の協調介入や日米当局幹部の円安牽制発言、円安抑止を強固にさせる日銀の利上げ強化姿勢（日銀幹部発言や観測報道）などを注視した展開となる。ドルなどの外貨の戻り売り、円の押し目買い要因となりやすい。

最近のドル/円ではドルが直近高値を更新したあと、介入等によるドル急反落の局面で、2022年10月のドル高値（1カ月目）からのドル急反落が「4カ月目」の2023年1月でドルが底入れ反発となっていた。2024年7月からのドル急反落は「3カ月目」の同年9月、2025年1月からのドル急反落は「4カ月目」の同年4月でドルが底入れ反発となっている。こうした実績からすると、今後3－4カ月は円高やドルなどの外貨安に神経質となる地合いが続く。

一方で現在の場合、9月以降にかけて米FRBやECB（欧州中銀）など海外中銀の利上げ観測がくすぶっている。こうした海外の利上げが市場の注目テーマになると、対円でドルを含めた「利上げ観測通貨」の下落余地が狭まったり、下限を切り上げてくる可能性もある。

日本の政策面では7月27日、高市早苗首相が骨太方針に關しての会見で、「現時点ではデフレを脱却したと言える状況にはない」、「デフレに後戻りしない状況か否かは慎重な判断が必要」と述べた。その中で現状から行き過ぎた円安の是正の範囲を超えて、一段の円高加速や円高トレンドが定着となれば、改めてデフレ脱却が遠のくリスクがある。

すでに8月3日の日本株市場では円高を受けて、輸出・外需の依存度が高い企業の業績悪化が懸念され、日経平均株価は大幅な下落となっていた。一段の円高進行は、高市政権が重要視する債務以上の名目GDP成長や、企業による今後の賃上

**WARNING!** 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパン  
エコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送  
は法的に罰せられますのでご注意ください。



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル  
TEL (03) 5962-3910 FAX (03) 5962-3913  
E-Mail info@j-pulse.co.jp URL <http://www.j-pulse.co.jp>  
発行責任者：上坂 郁 編集長：原田 祥二

げに悪影響を及ぼす。

同時に現在の国内では新NISA等により、個人の株式保有が増加傾向にある。現状から円高・株安が続くと、個人の株式含み益減少や含み損などにより、物価高との二重打撃で個人消費にマイナスとなってしまう。内閣支持率の面でも「円安是正＝物価高抑制」のプラス面に対し、「円高＝株安」が行き過ぎとなれば支持率低下につながるリスクがある。

こうした点で高市政権による円安是正の参考メドとして注目されるのは、日銀短観での企業によるドル/円の想定レートだ。最新6月短観では全規模・全産業で152.57円、大企業・製造業で151.55円、中小企業・全産業で154.29円などとなっている。直近の想定レートは、今週以降の企業決算発表でも注目されそうだ。その他の注目点は以下。

#### ＜ドル/円の下値抵抗線、フィボナッチ分析でのメド＞

ドル/円ではドル安・円高が加速されるなか、ブルームバークのレートによると、まずは直近の5月ドル安値155.04円が焦点となる。それ以外で参考になるのが、テクニカルでのフィボナッチ分析だ。

今年1月以降のドル安値からドル高値の76.4%押しが154.91円、2025年4月以降のドル安値からドル高値の38.2%押しが154.78円、50.0%押しが151.94円、2024年9月以降のドル安値からドル高値の38.2%押しが154.67円、50.0%押しが151.79と円になっている。

#### ＜クロス円の週足、節目ライン攻防＞

為替相場のクロス円（円の対非ドル通貨）取引は、週足テクニカルで重要節目ラインを巡る攻防となっている。これから上下動を経ながらも上抜け維持できるか、完全に下抜けていくかの重要な週足ラインは、各通貨ペアで40週、52週の各移動平均線、一目均衡表の基準線、先行スパン1と2（雲の上限と下限）などとなっている。

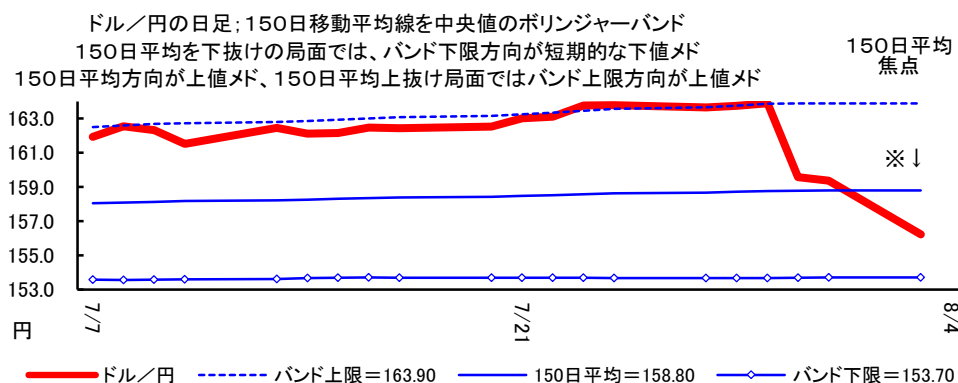
#### ＜雇用統計などの米指標、FRB政策＞

米国では今週に重要指標が相次ぐ。基本的には米イラン紛争の当初ショックの一旦の消化のほか、AI・データセンター関連の設備投資急増、6-7月のサッカーW杯開催の特需、米国産の資源・物資需要増加などにより、底堅い数字が注目されやすい。注目は7日の雇用統計や失業率だが、前月の鈍化の反動もあり、改善の可能性はある。

米国の指標が底堅さを示すと、9月にかけての米FRBの利上げ観測を後押しさせる。米財務省が前週、日本の当局による円買い・ドル売りの為替市場介入に協調参加し、ドル押し下げをサポートしたのは、今後、米国指標の力強さとウォーシュ新FRB議長によるインフレ未然抑止の利上げ対応により、来年にかけてドル高・円安の伸びしろ余地があるため、「現段階からドルの発射台を押し下げた」といった指摘も一部で囁かれている。

#### ＜日銀の政策対応＞

日本では円安抑止の「持続性」を左右する要因として、日銀の政策対応が注目



される。今週5日には日銀が6月15－16日に開催した政策決定会合の議事要旨が公表される。同会合では利上げを決めており、今後の利上げ継続や利上げペースの加速、最終利上げ幅の引き上げといった「利上げ前向き姿勢」が見られると、全般的な円高の要因となりやすい。

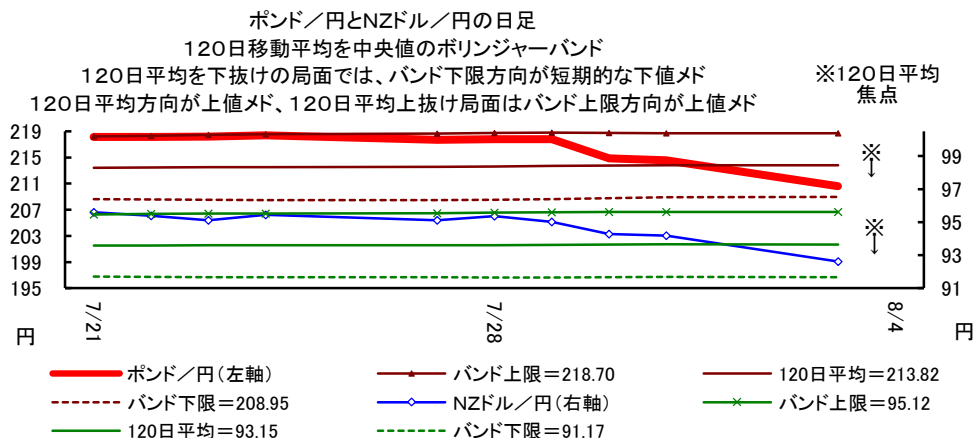
一方で今後の円安是正と円高の進展次第では、米イラン対立の一服期待による原油反落などもあり、国内では物価が抑制されていく。物価高の懸念が緩和されると、日銀は高市政権の成長戦略強化への配慮や、長期金利上昇の抑制配慮が求められる。その点で前週からの円高進展については、日銀が利上げペースの加速地ならしで円安是正の流れを固めていくか。あるいは円安・物価高の加速懸念一服により、日銀が利上げ強化姿勢を緩和させ、それが円安を再燃させていくか否かが注目される。

### ＜日本の財政懸念＞

日本では前週の日米協調による円買い介入により、財政懸念と国債売り（金利は上昇）、円売りの流れに一旦は歯止めを掛けた。それでも7月30日には高市早苗首相が食品消費税の減税や給付金の実施を表明する一方、財源は明示していないことで日本の財政懸念は残存となっている。

前週後半からは熊本地震への対応として、補正予算案の編成論が浮上。7月30日には片山さつき財務相が来年度の予算案に関して、「（成長投資では）概算要求基準でシーリング（上限）と呼ぶべきものはない」と発言し、歳出増の上振れリスクが示唆されている。

何より高市早苗首相は来年度の予算案について、成長と投資の加速に向けた「責任ある積極財政の元年」とアピールしている。これから8月末にかけての地震補正論議と概算要求、その後に予定される内閣改造・自民党幹部人事でのリフレ派処遇、年後半にかけての来年度予算案・編成大詰めに向けて、日本では財政不安と国債価格の下落、円売り拡大の潜在リスクが残る。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。